

# 令和2年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果発表会

国際エメックスセンターは、令和2年度より若手研究者活動支援制度を設置し、閉鎖性海域の環境保全に資する研究に取り組む優れた若手研究者の育成支援に取り組んでいます。昨年5月に厳正な選考を経て、4名の若手研究者が助成対象となり、研究を行ってきました。この度、初めての試みとして、その研究成果を広く一般に公開するため、公開成果発表会を開催することになりました。海洋環境の保全にご関心のある皆様のご参加をお待ちしています。



**参加費 無料** **2021年**  
**5月21日(金) 14:00~16:20**

**ANCHOR KOBE イベントスペースC**

神戸市中央区加納町4-2-1 神戸三宮阪急ビル 15階

【電車をご利用の場合】

- ・阪急「三宮駅」東口直結
- ・JR「三ノ宮駅」西口徒歩2分
- ・神戸市営地下鉄「三宮駅」阪急連絡口徒歩2分

**定員 先着150名**

会場での参加 定員60名  
Webでの同時配信 定員90名

14:00 ~	開場		
	開会の挨拶		岡田 光正 研究指導員
14:10	研究発表	有明海に流入する白川・緑川河口域において衰退した二枚貝群集による水質浄化の歴史的変遷	熊本県立大学 環境共生学部 小森田 智大
14:40	研究発表	瀬戸内海の湾灘スケールの水・物質循環に及ぼす沿岸開発の影響評価	大阪大学 大学院工学研究科 中谷 祐介
15:10	研究発表	養殖海域の底生生物による環境負荷低減効果に関する研究	東京大学 生産技術研究所 吉田 毅郎
15:40	研究発表	マグロ養殖場は有害赤潮の発生に寄与しているのか？	水産研究・教育機構 廿日市庁舎 水産技術研究所 北辻 さほ
16:20	総括 閉会		柳 哲雄 研究指導員

〔主催〕（公財）国際エメックスセンター

詳細はHPをご覧ください <https://www.emecs.or.jp/topics/20210521>

小森田 智大

熊本県立大学 環  
境共生学部 海洋  
生態学研究室  
准教授



九州の有明海の干潟はアサリ的一大産地でしたが、現在はホトトギスガイと呼ばれる二枚貝の一種が優占しており、我々は干潟の能力を上手に引き出せていません。私は、「このような優占種の変化はいつから生じたのか?」、そして「二枚貝がもたらす重要な生態系サービスの1つである水質浄化能力は経時的に変化したのか?」ということに興味を持ち、本申請課題を実施しました。有明海の砂質干潟を人間にとって活用しやすい生態系とするための具体策の実施が将来的な目標です。今回の発表では、熊本県が蓄積してきた調査結果を解析するとともに、干潟の生産性に関する実験結果をご紹介します。

中谷 祐介

大阪大学大学院  
工学研究科 地球  
総合工学専攻  
助教



防災構造物の建設、港湾機能の増強、廃棄物処理用地の確保などの必要性を考えれば、今後も沿岸開発を行うことは避けられません。瀬戸内海では埋め立てなどの地形改変が多くなされてきましたが、湾灘スケールの水環境への影響については十分な評価はなされていません。本研究では、地形改変が瀬戸内海の水・物質循環に及ぼす影響を最先端の三次元数値モデルを用いて明らかにすることを目的としています。本研究で構築する数値モデルは、瀬戸内海が現在直面している様々な水環境問題（赤潮、貧酸素水塊、貧栄養化、COD管理など）の機構解明や方策検討への利用も期待できます。本研究を出発点として、瀬戸内海の水環境に関する研究を将来展開し、社会に役立つ成果・知見を示していきたいと考えています。

吉田 毅郎

東京大学 生産技  
術研究所  
助教  
2021年4月より  
東京海洋大学  
准教授



ギンザケ生簀周辺において底生生物であるナマコやギンポによる環境負荷低減効果について研究します。このような効果を把握するための基礎研究として、実海域において箱網を生簀下に設置して底生生物の生存・育成の試験をします。そして、底生生物の効果を把握するためのモニタリング技術も必要となるため、海底設置型水中カメラの研究開発を行います。また、これまでに使用してきた流れ場・生態系結合数値シミュレーションモデルを改良し、ギンザケ養殖生簀周辺の底生生物による影響を含めることを目指します。これらを通じて、将来的に実際の養殖場で底生生物による環境負荷低減効果を計測・把握するための基盤を形成することを本研究の目的とします。

北辻 さほ

(国研)水産研究・  
教育機構  
水産技術研究所  
主任研究員



近年、有害赤潮藻カレニア (Karenia mikimotoi) による養殖マグロの被害が問題となっており、対策が求められています。本課題ではマグロ養殖を行う内湾をモデル海域として水中の栄養塩濃度や底質の有機物量の動態を明らかにし、カレニアにとってどのような環境なのかを把握することを目的としました。その結果、カレニアが増殖する夏季において、底層に豊富な栄養塩が存在することが明らかとなりました。また、マグロ養殖場では底質中の有機物含量が高く、底質からの栄養塩の溶出速度に影響した可能性が示唆されました。今後、更なる関連データを取得しつつ、ボックスモデル等を用いた定量解析を進めていきたいと考えています。

【参加申し込みについて】

参加ご希望の方は、**お申込Googleフォーム**(<https://forms.gle/XCeYe3ATfavqbBjt7>)にご入力後に送信いただく、もしくは、下記の申込書に必要事項をご記入の上、国際エメックスセンターへメールでお申込みください。 \*定員(150名)に達し次第、締め切ります。

お申込Googleフォーム  
QRコードはコチラ



令和2年度若手研究者活動支援制度助成金 公開成果発表会 参加申込書

お名前	所属	役職等	参加方法	E-mail
			会場 o r WEB	
			会場 o r WEB	
			会場 o r WEB	



【お問合せ・参加申込先】

(公財)国際エメックスセンター (担当:大輪)  
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番2号  
TEL 078-252-0234 FAX 078-252-0404

申込用HP <https://forms.gle/XCeYe3ATfavqbBjt7>

人と防災未来センター 東館5階  
E-mail [secret@emecs.or.jp](mailto:secret@emecs.or.jp)